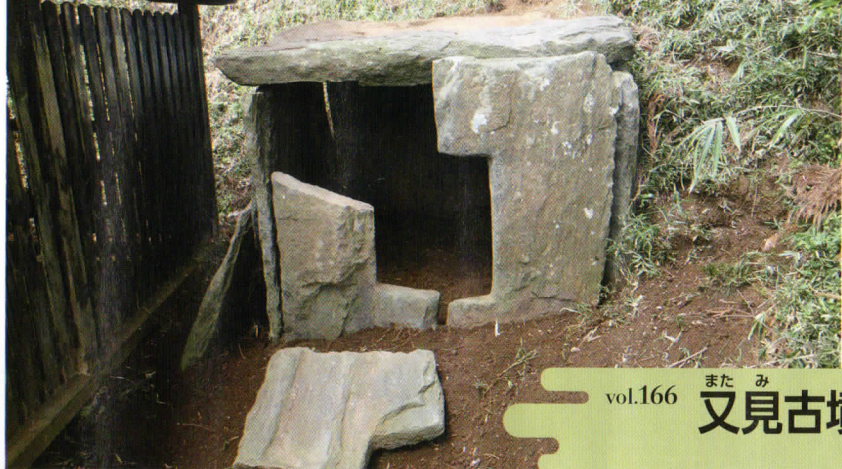


## 香取遺産

◀修復後



## vol.166 またみ 又見古墳の災害復旧

又見神社 香取1480

香取神宮より西へ約500mの位置に鎮座する又見神社の社殿横には、市指定史跡である又見古墳の石室が残されています。

石室は筑波山周辺で採れる雲母片岩を板状に加工し、組み合わせた横穴式石室です。現状では遺体を安置する玄室部分の奥壁1枚、左右側壁が各2枚、玄門2枚、天井石2枚が残されています。この他に、玄室の傍らには板石が数枚残されていることから、玄室に通じる羨道せんどうが設けられていた可能性があります。

又見古墳最大の特徴はコの字形にくり抜いた板石を組み合わせた玄門です。この類例は千葉県の下総地域には無く、筑波山周辺にある岩谷古墳いわや(石岡市)や佐都ヶ岩屋古墳どがいわや(つくば市)など限られた古墳のみです。使用する石材や石室の構造から、筑波山周辺地域とのつながりをうかがい知ることができます。

このように、とても珍しい石室ですが、令和元年東日本台風(台風19号)による雨の影響で、大きく傾いてしまいました。そのため、所有者の香取神宮と市で協議し、玄室部分の修復作業を実施しました。その際に、遺物などは発見されませんでした。玄室の石を固定する、裏込めうらごめと呼ばれる粘土を確認することができました。

修復された又見古墳を、この機会に見学してみたいかがでしょうか。



圓生涯学習課

☎(50)1224

▶修復前